

5-8

自尊心のある排泄ケアを行い、QOLの向上を図る

「パンツをはいて、はばかりへ行こう!!」

個別排泄ケア

オムツカバー0

特別養護老人ホーム フェローホームズ

介護職 岡部 麻弓

フロアマネージャー 渡部 伸子

東京都立川市富士見町2丁目36番43号

TEL: 042-523-7601

E-mail: info@fellow-homes.or.jp

FAX: 042-523-7605

URL: http://www.fellow-homes.or.jp

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人恵比寿会を母体とする特別養護老人ホームフェローホームズは「家族」をキーワードに平成4年4月に開設いたしました。立川の昭和記念公園の前にあり、緑豊かな駅からも徒歩でこられる場所にある非常に明るい施設です。

〈取り組んだ課題〉

- ・ 快適な排泄の理解。
 - ・ 排泄に関する意識改革。意識の統一。
 - ・ より良い排泄ケアに向けての具体的な取り組み。
- 〈具体的な取り組み〉
- ・ 前年度「アクティブ福祉IN東京」での他施設の発表を聞いた職員達が取り組みたいとフロアミーティングで発言する。フロア職員の賛同を得て施設長の承認を頂き、取り組みを開始する。
 - ・ オムツカバーゼロプロジェクト「より良い排泄ケアをめざす」を発足した。
 - ・ 提案書を作成。この事に取り組む目的、目標、スケジュール、メリット・デメリットの確認、コストを確認し、取り組むスタッフ、施設全体で共有した。
 - ・ 外部アドバイザーの協力を得ながら、一連の流れの中でまずはオムツカバーを外し布のパンツを使用するようにした。
 - ・ オムツの適切な当て方の講習会をフロア全職員に対し実施した。
 - ・ 適正なオムツの種類を選択できるよう、尿量の測定や形状等を検討した。
 - ・ 定期的にフィードバックを行い、現状を把握し課題点を改善した。
 - ・ オムツカバー使用がほとんどゼロに近づいた時点でオムツカバーゼロプロジェクトを終了した。
 - ・ 「より良い排泄ケアをめざす」に基づき、排泄プロジェクトを発足した。プロジェクトの目的は次の通り。『個々の排泄パターンを把握し、オムツ内失禁を減らす』
 - ・ 前年度より行っていた、「トイレットトレーニング」「排便サポート」を継続的に実施した。

〈活動の成果と評価〉

- ・ 布パンツを使用することにより、下着感覚が強く、利用者様の自尊心が保持できた。
- ・ オムツカバーを使用していた利用者様の人数が激減した。
- ・ カバーを使用していないので通気性がよく利用者様の排泄ケアが快適になった。またそういう意見が聞かれた。
- ・ オシリのラインがスッキリした。
- ・ スキントラブルが減った。
- ・ 衣類汚染まで行ってしまう失禁が増えた。
- ・ コスト削減ができた。
- ・ 利用者様の中にトイレに行きたいと訴える利用者様が出てきた。
- ・ 職員の排泄ケアに関するスキルがあがった。
- ・ 利用者様のオムツいじりが減った。
- ・ 労働力の軽減につながった。
- ・ 排泄ケアの個性が出てきた。

〈今後の課題〉

- ・ 基本的には大成功を収めた取り組みであった。今後は、排泄プロジェクトの基、個々の排泄パターンを把握し、オムツ内失禁を減らす取り組みに力を入れていく。
- ・ 利用者様のより良い排泄ケアをめざして、更なる発展をしていく。
- ・ 今年度は、『とりもどそう、トイレですっきり快便ライフ』というプロジェクト名で、トイレ(Pトイレ)誘導率の向上、自然排泄・トイレ(Pトイレ)への排泄を目指しての取り組みを行っていく。